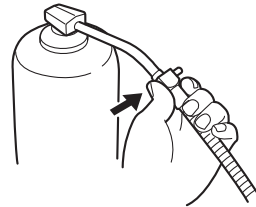
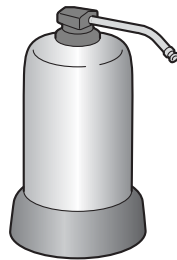
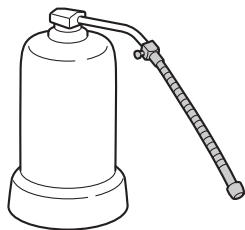


取説イラスト作成のための

取材写真の撮り方



3つのポイント



イラストを描くための元となる写真。その撮影のポイントを解説します。
より良い取説イラスト作成のために、またイラストレーターとのコミュニケーションを円滑にするために、ご活用頂ければ幸いです。



トリセツ

取説イラスト工房

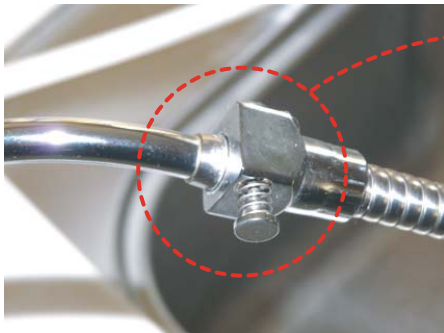
gives SIMPLE and GREAT figures to your manuals.

1

全体を撮る

説明する部分だけでなく、その部分が全体のどこかわかる全体像も写して下さい。
イラストにするためには、全体を把握する必要があります。

一部分だけでなく…



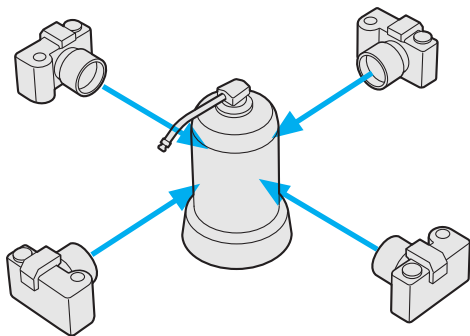
全体も撮影！



2

いろいろな角度から撮る

被写体を一方向からだけでなく、反対側や正面というように、2～3方向から撮影すると形を把握しやすくなります。外した部品の裏側も撮影すると、取付け形状が理解できます。斜め方向だけでなく、正面や側面も忘れずに撮影して下さい。



いろいろな方向から！



たくさん撮ってね



●カメラの撮影画素数は、高い必要はありません。
画像サイズも1280×960ピクセル程度で十分です。

3

いっしょに撮る

被写体（現物）が実際にどれくらいの大きさなのか、比較の対象も一緒に写して下さい。
複数ある部品を個別に写しただけでは、部品の大きさ関係が分かりません。

単品だけでなく…



部品を一度に！



大きさの違いが
わかりますね



重要

撮影の基本は、「被写体から離れて撮影」と「ズームで拡大撮影」です。
被写体をあまり近くで撮影すると、形が歪んで写ります。
極端にゆがんで写ると、正しい形が判断できなくなりイラスト作成に影響します。

離れて撮影

ズームで拡大撮影

モニター

被写体近くで撮影

一般にデジタルカメラは被写体をモニターで見ながら撮影します。これが被写体とカメラの距離を縮め、ゆがんで写る原因になります。被写体との距離をとるために、モニターを顔に寄せて撮影しましょう。撮影にはファインダーで撮影できる一眼レフカメラをおすすめします。

●被写体に近づき接写撮影する場合は、カメラの機能「マクロ撮影」(📷)を利用しましょう。近くでもピントが合うようになります。
※操作はカメラの取説を参照して下さい

形の歪みが少ない

歪んだ様に見える
(遠近感が強調されるため)

ちょっとした工夫で写真整理が楽になる“裏技”

- 撮影中、話の流れが切り替わる時は、手でカメラのレンズを塞いでシャッターを切ります。後から写真整理をする時に、黒い画像が区切りになり整理しやすくなります。

…そして、次は、

カシャ

ここで話が変わってる

- 図面や、取材中に書かれたホワイトボード等の議事録を撮影する。定規を当てて撮影する…など、関連する資料と一緒に撮影しておくのも有効です。

メモの代わりに…

定規と一緒に…

- 取材時の現物が実際と違っている場合は、指で×の形をつくり一緒に写します。指を使ったサインを決めておくとよいでしょう。

これは“違う”というサイン

まわりに注意してケガのないように撮影しましょう

取説イラスト工房では、写真の情報が多少不足していても、イラストを作成することができます。
情報が無いところはファジーに仕上げることも可能です。
取材の撮影も承っておりますので、お気軽にご相談下さい。
詳しくはホームページで紹介しています。

取説イラスト工房

検索



『驚き』の分かりやすさ

取説イラスト工房

- 取説イラスト (SIMPLE FIG.) の作成
 - ・取扱/取付/組立説明書や、各種マニュアルのイラスト
- パーツカタログ、技術資料、作業手順書のイラスト
- アイコン、マーク、ピクトグラムデザイン、挿絵、漫画
- イラストに関するご相談

<http://www.geocities.jp/simplefig>

この小冊子を販売目的で使用することを禁止します。
また、販売目的で複製・転載することを禁止します。
使用されるイラスト・文章の著作権は取説イラスト工房に帰属します。

第1版(作成日2010年7月16日)